

# パリ通信・第158回

## マルタ島のカラヴァッジョ

2月はパリも一番寒い時期で一日中曇っている日が多い。厳しい寒さもさることながら日光に当たれないのが精神的に辛い。そこで期限切れが近くなったエール・フランスのマイルを使って3泊4日でマルタ島に行くことにした。  
パリからマルタ島は



飛行機で3時間。雨が降って寒い3°Cそこそこのパリから、素晴らしい青空と太陽と海のラ・ヴァレッタ国際空港に降りた時は来てよかったと嬉しかった。朝晩は15度、昼間は20度で日向は暑いくらいである。1、2月のマル

タ島は年間で一番気温が低い時期。観光シーズンはオフで、中国人団体観光客以外は人も少なくのんびりと明るい光を味わうことができた。

シチリア島南端からマルタ島までは150kmの距離で、地中海海路の重要な拠点として古くから栄えてきたが、1813年から1964年独立まで150年間イギリス領であったため、英語が公用語で、シチリア方言とアラブ語が混

じったマルタ語を話している。マルタ島の北にはコミノ島とゴゾ島があり、コミノ島は上下水道が整備されておらず人は住んでいない。ゴゾ島の方は小麦と野菜栽培が行われ、島中に大きなサボテンがあった。ローマ時代からの塩田もあり人々はとても親切だった。



このマルタ島で見たかったのがカラヴァッジョ「洗礼者聖ヨハネの斬首」(1608年)(361 x 520 cm)である。ラ・ヴァレッタに「洗礼者聖ヨハネ聖堂とそれに付属するオラトリオ(宗教教育を目的とした小さな祈祷所)」がある。10世紀に建立され、1095年から1291年の「十字軍遠征」時代にはカトリック教徒を保護し、エルサレムのカトリック軍を守るマルタ騎士団として軍事的に重要な役割を担うようになる。1530年スペイン王カルロス5世がマルタ島を手中に納め、強固な城砦を築き、敵対するオスマン・トルコ軍との戦いにも勝利する宗教および軍事砦となる。こうした歴史を背景に、1572年新たな聖ヨハネ教会の建設が始まり1577年に完成する。外観は城塞のように厳しいが、内部はバロック様式の派手で豪華な装飾でその対比に驚く。オラトリオ建立は1600年に始まり、第54代マルタ騎士団長アロフ・ド・ウィニャクール(1547-1622)(騎士団長在位1601-1622)



が指揮する。フランドル出身の貴族で17歳でマルタ騎士団フランス語軍(礼拝堂もフランス語、スペイン語、ドイツ語、イタリア語、プロヴァンス語と言語別に分かれている)に入団し1601年騎士団長となり20年の長い任期を勤める。この人こそがカラヴァッジョの救い主となる筈だった。

ローマで確固たる名声を確立していたカラヴァッジョは1606年殺人沙汰で死刑を宣告されナポリに逃れた後、1607年7月マルタ島に渡り騎士団入団を求める。12ヶ月は騎士団見習いとして聖堂内で制作に集中する。カラヴァッジョの名声はアロフ・ド・ウィニャクールにとっては願ってもないことで騎士団見習いが過ごすオラトリオの祭壇に飾る絵を注文する。これが「洗礼者聖ヨハネの斬首」である。

ヘロデ王の娘サロメは洗礼者ヨハネの首を欲し、斬首の瞬間が描かれている。サロメの使いと思われる娘はヨハネの首を乗せる器を差し出している。隣にいる老婆は恐ろしさに顔を覆っている。青い服の男は指で斬首を指示している。牢獄から2人の囚人が処刑を目撃

している。赤い布衣だけが地面に横たわるのがヨハネであることを示し、天使もいなければ、ヨハネの聖水もない。登場人物は地上のこととして各々が完結している。ただ一人感情を露わにしている老婆でさえもその叫びは聞こえてこない。斬首とい



う残虐でありながら鎮まり還った一枚に見える。画像としては知っていたが実際に作品の前に立ってみると思っていたのとはまったく異なる感情が湧いてくる。マルタ騎士団長に重用され、法皇の恩赦も夢ではなくなり、カラヴァッジョの精神状態は安定し、心に光が



差したように感じる。ヨハネの首から流れる血には「fra Michelangelo」のサインがある。カラヴァッジョがサインした唯一の作品で、彼自身満足し、ローマの殺人沙汰も許さ

れると思ったに違いない。ところがマルタ島の有力者たちの宴に招待されなかったことから暴力沙汰に及び投獄される。1608年10月脱獄、マルタ騎士団からは追放、15ヶ月の短いマルタ島滞在は深い失望に終わる。

「洗礼者聖ヨハネの斬首」は今もあるべきところにあり、オラトリオのバロック装飾に負けない静の力を発している。パリのルーブル美術館にある「アロフ・ド・ウィニャクールの肖像」もカラヴァッジョがマルタ島で描いた作品の一つで、1670年にはフランス王ルイ14世コレクションとなり今日に至っている。（古賀順子記）

#### 参考

カラヴァッジョのフルネームは「ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ」